

令和 2 年度自己評価結果

習志野みのり幼稚園

令和 2 年度の活動を振り返り、教職員一人一人が自らの教育活動や状況を客観的に評価いたしましたので、その結果をご報告いたします。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来とは全く異なる環境下での運営を余儀なくされました。4 月・5 月は休園、6 月は分散登園を実施いたしました。保育再開後は、換気・消毒の徹底、密を避ける保育、行事の縮小・中止、保育参観の中止、職員の在宅勤務(保育後)実施など感染防止対策に努める一方で、「新しい生活様式」のもと、どのようにすれば子どもたちが安心して、毎日を心豊かに楽しく過ごせるかに職員一同が心を砕いてまいりました。

試行錯誤の一年間であり、園の運営方針について賛否両論があるかとは存じますが、保護者の皆様からは概ねご賛同いただいたことを感謝しております。

令和 2 年度の評価結果を深く受け止め、より良い保育環境の整備、更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

- ・ 安全で幸福な生活を送るための基本的習慣、心身の発達、豊かな感性、自主性、社会性を、子ども自身の主体性のある遊び、クラス活動、オープン保育、音楽、体育、国語教育、造形活動等を通し育む。
- ・ 一人一人の発達の状況個性を踏まえ、子ども同士の関わり合いを尊重し子どもに寄り添った保育をする。
- ・ 将来、社会の中で喜びを持ってその発展に寄与することができる人間性を育む。

(具体的教育目標)

- ・ 運動感覚を養い健康な体作りのサポートをする。
- ・ 安定した情緒の下で自己を発揮できるように配慮し、子どもの主体的な活動を促し、自己肯定感を育む。
- ・ 子ども同士の遊びの中の関りを重視し社会性を養う。
- ・ 日常会話、読み聞かせ等を重視して表現力、豊かな感性を養う。
- ・ 子どもの興味のある事象を尊重し自主性、意欲、問題解決能力の育成を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組んだ目標・計画

評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することによって全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に主体的に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領、子どもの実態をふまえた教育課程の作成、保育をする。	子どもの実態をふまえた教育やカリキュラムを組むことは概ねできているが、幼稚園教育要領への理解はさらに深めていく必要がある。	B
子どもの実態を的確につかみ具体的な日案作成をする。	子どもたちの成長度合いや様子を考慮しながら日案作成することは概ねできている。また、当日の子どもたちの様子や天候に合わせて日案を変更するなど、臨機応変に対応できているケースもある。	A
正しい姿勢、バランス感覚が身につくような声かけ、取り組みを行う。	朝の集まりや給食時における姿勢に対する声かけは、ほぼできている。幼児体育、サッカー、剣道、新体操、鼓笛などの指導を通じて正しい姿勢やバランス感覚を養っている。	A
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	手洗い・うがい・排泄などの基本的な生活習慣に始まり、身だしなみや整理整頓など年齢に合わせた指導をしている。長期休み期間の規則正しい生活や、コロナウイルス対策(手洗い・マスクの着用等)指導も行った。	B
安全で興味の引く保育環境を用意する。	子どもたちが安全に楽しく過ごせるように保育室や園庭、遊具の安全管理に十分注意した。年齢が高くなるに従い、難易度の高いことへの取り組みと安全性の確保とのバランスを調整するのが難しくなり、安全性を優先してしまう面もあった。子どもの好奇心を尊重し、学ぶことの楽しさを実感できるようにオープン教育を取り入れるなど、さまざま工夫もしている。また安全の為に補修を要することが増えており、随時更新をしている。	B
子どもの良さを認めて評価する。	子どものよいところ、頑張ったところ、できるようになったことは評価し、褒めるように心がけ、実践できている。今後は、子どものやる気につながるような褒め方・評価の仕方ができるように工夫したい。	A
日常会話、季節の歌、読み聞かせ、制作を通し表現力を養う。	コロナウイルス対策のため、歌の指導は十分に行うことはできなかった。そのため、紙芝居・読み聞かせ・絵本を用いて言葉による表現の楽しさを伝えることに力点を置いた。また、制作や絵画では、季節感のあるものや、製作後に遊べるものぶなど、季節や文化を学びながら想像力やコミュニケーション能力を養えるよう、工夫しながら保育を行っている。	B
遊びを通して工夫したり協力したりする姿を見守り、援助する。	学年によって子どもへの関わり方は異なるが、基本的には子どもの想像力、自主性、協調性を尊重し、見守っている。保育者は、トラブルを未然に防げるように必要に応じて援助や手助けをしている。	B
各クラスで起きた事案を園全体で共通理解しそれぞれの保育に役立てる。	自己や怪我等の重要案件については、朝礼や終礼などで周知しており、ほぼ園全体で共通理解できている。小さい案件については、担当教諭レベル、学年レベルで留まっている。どういった事案を全体で共通理解するのかしないのかを設定し周知する必要がある。また、コロナウイルス対策として保育後は在宅勤務を推奨していたため、実際に集まって情報交換する機会が減ったため、SNSを最大限に利用し、情報共有に努めた。	B

評価項目	取組状況	評価
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	定期的に学年会を開催し、各クラスの経営状況の報告や相談を行い、毎日の保育に活かせるよう取り組んでいる。学期ごとに反省点をまとめて園長にレポートしているが自由文形式であるため、定量的な観点には欠ける。	B
各職員が研修会に参加し他の職員へ伝え、その成果を保育に生かす。	コロナウイルス感染の影響で、ほとんどの研修が開催されず、参加もできなかった。	—
園だより等をとおして幼稚園の情報を発信していく。	毎月、クラス便り・学年便り・行事予定表を発行し、幼稚園の情報を発信している。また、必要に応じてお知らせ(紙、れんらくアプリ)を出して、タイムリーな情報提供を心掛けている。今年度は、保育参観を実施できなかったため、代替措置としてカリキュラムの様子を動画撮影し、各クラスに配信した。コロナウイルス感染防止対策の影響でお知らせを配布する機会が増えたこと、お知らせする内容が多岐にわたったことで、保護者からは「お知らせが多すぎる」という意見もあった。	A

<評価の基準> A:十分に達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが成果が十分でない

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価: B

各教職員が目標・課題を理解し自己評価することにより、取り組むべき課題を自ら認識し、改善していく意識が芽生えた。

5. 学校関係者(保護者)からの評価

- ・ コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な制約がある中、工夫しながら行事を実施してもらい感謝している。
- ・ 例年の運動会は種目も多く見応えもあるが、今年度のようなシンプルな運動会も悪くなかった。
- ・ 他園では実施していた行事が習志野みのり幼稚園では中止となったものがあり、園の事情もあるとは思いますが残念だった。来年度に期待したい。

6. 今後、取り組むべき課題

どのような環境下であっても、子どもの健やかな成長を支えることができるように既成概念にとらわれることなく、工夫を重ねていきたい。

全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に取り組み個々人の意識レベルを向上させるだけでなく、園単位(組織)での活動、情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

また、より安心・安全な保育を実施するための環境設定、各教諭の資質の向上にも努めたい。

(具体的目標)

- ・ 安全管理

毎年、引渡訓練と防災訓練を実施しているが、災害時の各職員の対応訓練、不審者対応訓練が十分ではないので、職員の意識づけ、危機管理マニュアルの作成を行いたい。

- ・ 教諭の資質の向上

令和2年度は、コロナウイルス感染拡大防止対策のため、研修には参加できなかった。来年度より幼稚園型こども園に移行することもあり、積極的に外部研修に参加するとともに、園内研修の内容をより一層充実させる、等の検討をしたい。

- ・ 情報の共有化

クラスで起きた事案、トラブル、怪我や病気等保育に関する情報の共有化、研修資料等保育技術に関する資料の共有化を図る。